

MDSから「インターライ」へ



池上教授

長。アセスメント結果から、機械的に問題領域を導きだすこととして開発された。池上教授は、インターライ日本理事長。アセスメント結果から、機械的に問題領域を導きだすこととして開発された。池上教授は、インターライ日本理事長。



事業者からも様々なメリットが報告された

インターライ方式は世界30カ国の研究者が成果を持ち寄り、国際比較ができる標準様式として開発された。池上教授は、インターライ日本理事長。アセスメント結果から、機械的に問題領域を導きだすこととして開発された。池上教授は、インターライ日本理事長。

ダイヤ高齢者財団が19日に開催したフォーラムで池上直己慶応大学教授は、国際的なアセスメントツールであるMDS方式を発展的に見直したインターライ方式について講演した。この日が日本版のお披露目。在宅、高齢者住宅、施設版があるが、これまでバラバラだったアセスメント項目を統合することで、在宅でのアセスメント結果がショートステイ先の施設でも生かせるようになるなど施設・在宅のシームレスな利用が可能になるのが特徴。アセスメント項目は減ったものの、設定が細くなるため改善目標を立てやすくなるという。

在宅・施設のシームレスケア可能に

在宅でのアセスメント結果が施設でも使えるようになる。日本語版では、アセスメント項目の記号も統一した念入れようだ。池上教授は「地域包括ケアで求められる本当のシームレスケアが可能になる」と強調した。

高齢者住宅版も登場

池上教授が「画期的」と評価したのは、ADLのトリアージの見直し。何らかの介助を受け、認知機能があり、終末期ではない人について「機能回復」か「機能維持」かを判別できるようになった。「肺炎などで入院した場合に、急にADLが落ちることがあるが、アセスメント者は今のその状態を通常の状態と思ひ込みがちだった。インターライでは、1カ月前には自立した状態であったことを見落とさないようになる」という。

インターライ版のソフトウェアはクラウド型で一元開発中で、各ベンダーが採用することにより来年4月以降、順次供給される見通しだ。施設、在宅、高齢者住宅の統合版で、軽度の人には高齢者版、重度の人は施設版と使い分けられることも可能という。マニュアルは11月から医学書院より発売されている。これに伴い、MDSのマニュアルは廃刊になった。新方式の定着を目指す考えだ。

インターライ版のソフトウェアはクラウド型で一元開発中で、各ベンダーが採用することにより来年4月以降、順次供給される見通しだ。施設、在宅、高齢者住宅の統合版で、軽度の人には高齢者版、重度の人は施設版と使い分けられることも可能という。マニュアルは11月から医学書院より発売されている。これに伴い、MDSのマニュアルは廃刊になった。新方式の定着を目指す考えだ。

の報酬額が引き下げられる案が提示されたことに対し、現状の報酬体系を維持することを求めていくため、報酬単価を引き下げ、メリハリのある体系にする案が提案された。これについて日本GH協では「到底容認できない」と反発。現状の体系の堅持を求めるとの請願署名活動を開始した。審議会のメンバーでなく公の場で反対

低くてもBPPDがあって単年度のみの収支に着目しウンロードできる。案では、経営実態調査の結果平均要介護度が低いところほど収支差率が高いことを理由に、要介護1・2の報酬単価を引き下げ、メリハリのある体系にする案が提案された。2016年1月の介護福祉士国家試験から、3年の実務経験に加え450時間の実務者研修が義務付けられることについて、厚生労働省は実務者研修の受講が免除される事業所や地域、

厚労省 実務者研修で指針 免除認定の研修基準など 20科目ある。受講免除はこの科目単位で行うことになるが、ガイドラインでは事例を多数用いて介護過程の展開能力や技術を身に付ける「介護過程Ⅲ(45時間)」と「医療的ケア(50時間)」は修了認定の対象外とした上で、免除対象となる地域研修の考え方を示すこととなる。

「思いを把握することこそケアマネジメントの重要な要素だ」というのが本書のテーマ。1990年代からケアマネジメントに携わっていた著者は言う。同じ思いの人は多いはずだ。(中央法規出版 03・3379・3386) 福富昌城・著 2520円

